



## マーティン・フェルドシュタイン教授を偲ぶ

神戸大学 経済経営研究所  
教授 チャールズ・ユウジ・ホリオカ

小生の恩師でもあり、共著者でもあるマーティン・スチュアート・フェルドシュタイン教授は2019年6月11日に79歳の若さでこの世を去りました。それ以来、私を含め、多くの経済学者、政策担当者などは悲しみに包まれています。

フェルドシュタイン教授は1939年にアメリカのニューヨーク市で生まれた偉大な経済学者です。1961年にハーバード大学経済学部を成績最優秀で卒業し、1967年にイギリスのオックスフォード大学で経済学博士号(Ph. D.)を取得しました。博士号取得後、母校のハーバード大学経済学部の助教授になり、僅か2年後に29歳の若さで教授に昇進し、終身在職権を取得しました。マクロ経済学や財政学、社会保障、医療経済学、国際経済学、安全保障の経済学など幅広い分野において顕著な業績を挙げました。

小生は学部4年生の夏、夏休みのアルバイトを探していた際、フェルドシュタイン教授が多数の研究助手を雇っているという噂を聞き、早速彼に会いに行ってみることにしました。私のことを何も知らなかったにも関わらず、その場で私を研究助手として採用してくださり、以後4年間、彼の研究のお手伝いをさせていただきました。この間、週に1回は研究の打合せを行い、その度にフェルドシュタイン教授の洞察力や想像力、知識・関心の広さに感服させられました。フェルドシュタイン教授と議論を交わすことにより、彼から研究の手法など授業では学べない様々なことを教わり、その時の貴重な経験はその後の私の研究生活に計りしれない程の影響を与えました。

フェルドシュタイン教授の研究助手の仕事の一環として、資本の国際移動に関する研究のお手伝いをさせていただきましたが、その際に彼と共著で書いた論文は、1980年にイギリスの王立経済学会の学会誌である『エコノミック・ジャーナル』に掲載されました。この論文は、人々は貯蓄を自国に投資する傾向が強いという意外な結果を見出し、この現象はその後「フェルドシュタイン・ホリオカ・パラドックス (逆説) またはパズル (謎)」と名付けられました。この論文は、経済学の分野では最も引用回数の多い論文の1つとなっています。

フェルドシュタイン教授は、この論文以外にも先駆的な業績を多数挙げており、約 400 本の学術論文を執筆しました。これらの論文の多くは、社会保障制度や税制をはじめとする様々な経済政策が、良かれ悪しかれ、個人・企業の行動を大きく左右するということを綿密な計量分析を通して示しています。例えば、ある論文は賦課方式の公的年金制度は人々の貯蓄を減少させ、資本蓄積に悪影響を与えてしまうことを示しました。また、別の研究では、投資に関する税制面の優遇措置は、企業の資本形成を増加させ、経済成長を促進するという結果を得ました。

このような研究業績が評価され、フェルドシュタイン教授は 1977 年に最も優秀な 40 歳以下のアメリカ人経済学者に贈られるアメリカ経済学会のジョン・ベーツ・クラーク・メダルという名誉ある賞を受賞し、2004 年にはアメリカ経済学会の会長に選ばれました。

フェルドシュタイン教授は顕著な研究業績を挙げただけではなく、経済学界の発展にも大きく貢献しました。1977 年に 37 歳の若さでアメリカで最も権威のある経済系の研究所であり、かつアメリカの景気循環のタイミングを決める機関としても有名な全米経済研究所 (National Bureau of Economic Research、NBER と略す) の所長となり、2008 年に所長を引退するまでの 30 年間以上、ハーバード大学教授と NBER の所長を兼務しました。この間、NBER は大きく成長し、実証研究において顕著な業績をおさめているアメリカ人経済学者のほとんどは NBER のリサーチ・アソシエートになっています。

また、フェルドシュタイン教授はアメリカの経済政策の運営にも深く関わり、1982 年から約 2 年間、レーガン政権の大統領経済諮問委員会委員長を務め、連邦政府の財政赤字の拡大の危険性について強く警告しました。2006 年には、(息子の) ブッシュ大統領によって大統領対外インテリジェンス諮問会議委員に任命され、2009 年には、オバマ大統領によって大統領経済回復顧問委員会委員にも任命され、政党を問わず、数々の大統領の経済ブレーンを務めました。

なお、フェルドシュタイン教授は教育・後輩の育成にも大きく貢献しました。長年、ハーバード大学で経済原論という授業を担当しており、この授業は毎回受講生が 1000 人を超えるほど、学部を問わず最も人気のある授業でした。さらに、フェルドシュタイン教授はとても優しく、面倒見がよく、多くの優秀な弟子を育てました。例えば、ローレンス・サマーズ教授とラジ・チェティ教授は、フェルドシュタイン教授と同様、アメリカ経済学会のジョン・ベーツ・クラーク・メダルを受賞し、グレン・ハバード教授、ハービー・ローゼン教授、ジェイソン・ファーマン教授は、フェルドシュタイン教授と同様、アメリカの大統領経済諮問委員会委員長を務め、ジェームズ・ポテルバ教授は、NBER 所長としてフェルドシュタイン教授の後を継ぎました。加えて、ダグラス・エルメンドーフ教授は議会予算局長を務め、ジェフリー・サックス教授は国連および数多くの国の経済ブレーンとなり、ローレンス・リンゼー氏、前述のサマーズ教授はいずれも国家経済会議委員長を務めまし

た。更に、リンゼー氏は連邦準備制度理事会（FRB）理事も歴任し、サマーズ教授は財務長官、世界銀行チーフエコノミスト、ハーバード大学学長も歴任しました。

これらの貢献に加え、フェルドシュタイン教授は『ニューヨーク・タイムズ』、『ウォール・ストリート・ジャーナル』などのような一般向けの新聞・雑誌に（多くの場合キャサリン夫人と共著で）頻繁に寄稿し、様々な経済問題について政策提言を行いました。フェルドシュタイン教授は研究者としての優れた知性はもちろん、難しいことを一般の人にも理解できるようにわかりやすく説明できる能力にも優れており、彼のハーバード大学での経済原論の講義や一般向けの新聞・雑誌記事、講演などが好評だったことは言うまでもありません。

つまり、フェルドシュタイン教授は研究者として、教育者として、政策アドバイザーとして、アメリカで最も権威のある経済系の研究所の所長として、経済評論家として、幅広い分野で顕著な功績を挙げられ、これだけ多方面に及んで貢献した経済学者は他にはいないと思います。

フェルドシュタイン教授のご冥福を心よりお祈り申し上げます。